

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202825		
法人名	医療法人社団真友会 藤井医院		
事業所名	医療法人社団真友会藤井医院 グループホームみどり	ユニット名	つばさ
所在地	長崎県佐世保市中通安町17-22		
自己評価作成日	平成26年7月6日	評価結果市町村受理日	平成年月日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年7月31日	評価確定日	平成年月日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が医療法人で医療面の連携は十分にとれています。「一人ひとりの声に耳を傾ける」という理念を大切にして、日々のケアを行っています。入居者様への言葉遣い・声のトーンなどを職員一人ひとりが気配り・目配り・心配りを行い、入居者様一人ひとりが穏やかに過ごしていただけるようケアの質の向上に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に理念を復唱し、フロアにも提示し、常に意識したうえで、介護に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議において情報を共有し、お互いの行事に参加できるようその都度調整を行ったり、回覧板などで呼びかけも行っている。また、町内清掃や町内自治会通常総会に参加し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議・家族会にて認知症の方の理解や支援方法を課題にあげ、取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	認知症についての理解を深めていただけるよう、ご入居者様の状況や活動の報告を行っている。ご意見をいただいたところは課題として、日々ケアに繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告を行っている。介護保険の更新・変更といった書類の手続きにおいては、丁寧な受付をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、議事録・マニュアルを作成し、いつでも回覧できるようにしている。また、職員間で情報をしっかりと共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修会で学ぶ機会を設けている。また、研修を終えたスタッフには自分の考えを勉強会等で発表していただき、意識の向上に努めている。日々、一人ひとりが意識を持って取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方は1名おられる。面会回数が非常に少ない為、定期的に手紙にて近況報告を行っている。また、運営推進会議や研修の中で学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すべてにおいて、必ず説明を行い、不明な点・質問・意見がないかを尋ね、理解・納得をさせていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、運営推進会議・家族会・面会時・日々の会話などでの意見は反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会・フロア会で、意見交換を行い、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の為の環境や各種手当での整備。希望休・有休もなるべく取れるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の資料は全スタッフに随時閲覧できるようにしている。また、研修も自主的に参加している。研修に参加したスタッフは研修報告を行い全スタッフに情報共有できるようにスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し地域で定期的に合同研修を実施している。また、同一法人のグループホームとも行事などで情報を共有し交流を図り、ケアの向上に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意向を傾聴する共に職員間での情報共有も図り、心身の状態把握を行っている。また、入居者様に各担当者を決め、コミュニケーションを多くとりながら信頼関係が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	よりよいサービスが提供ができるようご家族様とコミュニケーションを多くとれるよう努めている。また、ご家族様の意見・要望がでた場合はサービスに反映できるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様とよくコミュニケーションを取り、意向を伺いながら、適切により良いサービスが提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るところはお願いし、無理のない範囲でお手伝いをさせていただいている。また、人生の先輩として、言葉遣いは特に大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や外出行事などは、参加をお願いし、信頼関係づくりを行っている。あくまでも本人様の意向を大切に、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内に馴染みのある入居者様は随時面会できるように支援している。面会時、介入が必要な方は職員が仲介などの対応を行い、会話がスムーズに行なわれるよう努めている。また、どなたでも気軽に訪問していただけるよう雰囲気作りにも努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の会話や行動などを見守り、必要時は、職員が仲介に入っている。また、席の配置なども配慮して、全てのご利用者様が他者と関わりを持っていただけるよう対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても、いつでも訪問していただける事や相談・支援の受け入れが出来る事を伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのコミュニケーションを大切にしている。また、表情や行動などを良く観察し変化を見落とさないようし、意向の把握に努めケアに取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様・ご本人様とのコミュニケーションを大切にし情報収集している。また、主治医・地域といった多方面からも情報を得て、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で入居者様の情報を共有し趣味や生活歴などの把握に努め、本人様にとって最適な生活が送れるよう努めている。また、本人様の意向を尊重しながらも、本人様が持っている残存機能が低下しないよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な会議や申し送りノートを活用し介護計画に反映している。意見交換を行う以外にも、随時、職員同士で話し合いを設けている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態表・熱計表・ケース記録に毎日記録し、職員間の情報の共有をしっかりと行っている。また、介護計画がきちんと実践できているかどうかチェックを行い、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状態の変化と共に、その時希望されている事(外出・買物・外食など)を出来る限り個別で各担当者が行い、サービスの多様化に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある公共の教育センターで、行われている公民館祭りに作品を出展したり、見学にも行っている。今後も地域との交流を増やしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望する医療機関を受診できるよう配慮しており、心身の情報提供も行き、受診できるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、同一法人である医院と施設内に配属している看護師に状態報告を行っている。また、些細な事でも気づいた事は職員間で話し合い、必要時は看護師に伝えて、利用者様が適切な処置を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と情報交換を行い、安心して入院生活を送り、早期に退院できるよう関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・看護師の協力体制が十分に得られており、ご利用者様・ご家族様の意向を尊重し、各関係者と連携を持ちながら支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、定期的に勉強会(講義)を行っている。ただ、実践を踏まえた勉強会は誤嚥時の対処方法についての1回しか実施していない。そのため、今後は、実技などを踏まえた勉強会を増やしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	・火災予防のために毎日、電気機器の安全確認を行っている。 ・定期的な訓練を行う事で体制作りに取り組んでいる。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには特に注意しながら取り組んでいる。また、言葉遣いについて、必要時はその都度職員間で注意を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを大切にし、入居者様の表情や行動も日頃から見落とさないように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴・入床時間など、特に設定せず、一人ひとりの状態に合わせ、その方のペースにて過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	定期的な美容カットサービスを受けていただいている。更衣の際は好みの洋服を選んでいただけるよう言葉かけを行っている。また、希望者には化粧水・立て鏡を準備して本人様のペースで身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、お盆拭き、テーブル拭きなどをしていただいている。盛り付けなどにも工夫している。少し目が不自由な方には献立の内容を一品一品丁寧に説明している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の一覧表を基に、少ない方に対しては言葉かけなどを行い、無理のない程度で摂取していただけるよう対応している。また、水分が少ない方には一日の飲水量を記録し嗜好品やトロミ剤などを用意し飲水量確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、舌磨きや義歯洗浄・うがいのお手伝いを行っている。リステリンも活用し口腔内の清潔保持に努めている。また、歯科衛生士に口腔内のチェックを定期的をお願いしている。異常時はすぐに対応できるよう連携も密にしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に少しでも失禁予防ができるようその方の排泄パターンを把握して誘導している。また、パットなどを使用されている方は必ずパット内の清潔状況の確認を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヤクルト・センナ茶などを用意し、極力、薬を使用しないよう自然排便のお手伝いをしている。また、腹部マッサージや腹部保温などの対応も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日・時間帯は決めているが、コミュニケーションを図り、その方の意向にそった順番や入浴のタイミングを見極められるようスタッフ同士連携をとって対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに応じて安眠休息がとれるように、その方が好まれている場所(フロア・ソファーなど)やその方々の体調をみながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の詳細をファイルにしている。副作用や注意事項を何度も確認し、職員一人ひとりが服薬に対して意識向上に努めている。バイタル測定を行い必要に応じて看護師や主治医に報告し連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きといった家事手伝いは無理のない程度でしていただいている。個別レクリエーション(大正琴を弾いていただいたりなど)、歌を一緒に歌ったりと気分転換ができるよう支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・外食・買物などは、ご家族様の協力を得ながら個別・団体で支援を行っている。また、天気が良い時は当日に計画を立てドライブを随時行っている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で預かり金を管理している。希望の品がある場合は、職員介助にて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年から、ご家族様へ定期的に手紙や写真付きで状況報告を行っている。また、本人様希望時は電話を使用いただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビなどの音量や室温などにも配慮している。催物の写真や季節を感じていただけるようテーブルや窓際に花を飾ったりと工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にソファ2台と畳みを設置し、それぞれが好みの場所で気軽に使っていたけるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただき、以前ご家庭で使用していた家具や茶碗などの馴染みのあるものを持ってきていただけるようお願いしている。また、自立されている方は好きな植物を上手に育てられている。居心地良く過ごしていただけるよう努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーとなっている。トイレの場所もわかりやすいように絵を貼るなど工夫している。		